



古い織機がズラリと並ぶ工場内。旧式シャトル織機は高密度の生地をふっくらと仕上げ、他の織機では不可能な風合いを表現できる。古橋織布の若手スタッフ4人衆は、写真右から府川容子さん、濱田美希さん、西井佳織理さん、西井進さん。佳織理さんがこの会社の社長の一人娘で、進さんはその夫だ。

はままっ で Work Life はたらく



※Zutto:進学も就職もずっと地元

浜松にはどんなシゴトがあって、先輩たちは、なぜその職業を選んだのか。一度は浜松を離れ、就職のために戻った人。浜松に来て、浜松を選んだ人。ずっと浜松での生活を選んだ人。浜松で暮らし、いま働いている先輩の仕事内容や働き方、ライフスタイルをインタビュー取材しました。



濱田さんが企画したオリジナルブランド「oriya (オリア)」のトートバッグ。

製造業務全般、織機のメンテナンス

西井 進さん [32]
にしいすすむ



出身地 大阪府堺市
出身高校 阪南大学高校 (大阪)
■就職までの経緯／高校を卒業後、阪南大学の国際観光学科を経て大阪の金属加工メーカーに就職。年間300日ほど働き、「これ以上やっても意味がない」と思って5年後に退職。職場で知り合った彼女がちょうど故郷の浜松に帰ることになったので一緒について行くことにしました。彼女って、妻の佳織理のことですけど(笑)。それで義父の営む古橋織布を手伝うようになりました。■仕事の面白み／昔の織機を修理して使えるようにするのが楽しい。うちの工場は古くて汚いし、織機も故障が多いけど、ここで世界のトップブランドにも使われる生地を織っています。■浜松での暮らしは？／大阪では仕事帰りに居酒屋で飲んで帰るのが日常だったけど、こっちに来てからは飲みに行く機会も減ったし、健康的で規則正しい生活になりました。■休日は？／883ccの大型バイクでツーリング。バイクで他県までラーメン屋巡りもします。■今後の目標／もっと工場をきれいに新しくしたい。■高校時代にイメージしていた将来の自分／将来のことなんて、何にも考えてなかったです(笑)。

海外営業担当、生産管理、生地の企画

西井佳織理さん [32]
にしいかおり



出身地 浜松市
出身高校 浜松南高等学校 英語科
■就職までの経緯／高校を卒業後、関西外国語大学に進学し、3年生の時にアメリカのメリーランド州に1年間留学。卒業後は英語を生かした仕事に就きたくて大阪の金属加工メーカーに就職し、営業の仕事をしていました。でも一人っ子なので27歳ごろから親のことが心配になってきて、仕事を辞めて浜松に帰ることにしました。■仕事の面白み／織物はまず経糸(たていと)をそろえ、そこに緯糸(よこいと)を交差させて織っていきます。緯糸の色や素材を変えて、私たちの感性を生かした組み合わせを考えるのが楽しいです。■休日は？／たまに地元の友達とホームパーティーをしたり、買い物に行ったりします。■高校時代にイメージしていた将来の自分／英語が好きで小6から英会話教室へ通い始めました。将来は通訳になりたいと、CAに憧れた時期もありました。■大人になって思うこと／子どもの頃は家業のことをよく知らなかったけど、大阪で働いていた頃、母から英語のメールを頼まれて、「うちの会社って結構すごいかも?」って、ちょっとびっくり。あらためて見直してしまいました。

国内営業担当、生地の企画、オリジナルブランドの企画

濱田美希さん [28]
はまだみき



出身地 東京都小金井市
出身高校 明星学園高校 (東京)
■就職までの経緯／幼い頃に祖母から縫製の英才教育を受け、小3で自分で帽子が縫えるほどの腕前でした。生地を見るのも大好きで、国産の生地と出会って「すごい!」と感激。それで高校を卒業後、文化服装学院のファッションテキスタイル科に進学。卒業後は生地を作る仕事にしたいと、専門学校の先生の紹介でこの会社に就職しました。■会社の良いところ／古橋織布の生地は見た目も触感もすごくいい。学生時代に買ったダウンジャケットの生地が、偶然にも古橋織布製だと後で分かって運命を感じました。■仕事の面白み／職人さんが大好きなので一緒に仕事できるだけで幸せ。織物には「名前の無い仕事」がたくさんあって、一つの生地をさまざまな職人さんと作り上げていく過程が楽しい。■休日は？／浜松に来てからフットサルを始めました。今ではチームの代表を務めています。■今後の目標／浜松に来て驚いたのは、遠州織物がほとんど知られていないこと。だからまず皆さんに知ってほしい。■特技／街を歩いている人の服を見ただけで、うちの生地かどうかが分かります。スゴイでしょ!

製造業務全般、「へ通し」作業(修行中)

府川容子さん [37]
ふかわようこ



出身地 神奈川県足柄上郡
出身高校 東海大相模高校 (神奈川)
■就職までの経緯／高校を卒業後、桜美林大学の国際学科に進学しました。その後イギリスの大学に4年、フィンランドの大学に3年、再びイギリスの大学に1年在学して教育学を専攻し、日本に帰国。北欧発の家具量販店で1年間働き、東京都内の大学研究室に入って発達障害の教育支援を行い、その後、元夫の仕事の関係で浜松にきました。もともと織物に興味があったので、遠州織物の卸・小売りをしている会社に入社して卸を担当。そこで製作の工程を目にして、「へ通し」(織機に1本ずつ糸を通す作業)の美しさに惹かれ、その仕事にしたいと入社しました。■仕事の面白み／繊維業界の仕事は、へ通しや整経といった美しい作業が多いんです。何を美しいと思うかは人それぞれだけど、美しいと思えるものがあるって大切だと思います。■高校時代にしておけばよかったこと／高校時代は人生の中で一番苦しい時期でした。真っ暗な感じで、楽しくもなかったけど、特にこれをしておけばよかったという後悔もありません。そんな過去があるおかげで、今を楽しめている自分がいるというか。

勤務先 古橋織布 有限会社 [西区雄踏町]

01 織屋・機屋 おりや はたや

レトロな織機で織り上げる 世界のファッショントレンド

ガチャンガチャンと、ノコギリ屋根の古い工場から織機しよつきの音が鳴り響く。織物は昭和時代の浜松の三大産業の一つで、「ガチャ万時代(ガチャンとひと織りすれば1万円もかかる)」と呼ばれる黄金期もあったほど。最近国内生産が減り、職人も高齢化してきているけれど、それでも浜松ならではの質豊かな綿織物を地道に織り続けている町工場がある。

〈古橋織布〉は、昔ながらの織機を使って高密度の綿織物を生産。その製品は国内外の有名ブランドでも採用されている。現在スタッフは8人で、その半分は20〜30代。レトロな織機と若い力で、世界のファッショントレンドを織り上げている。